

## 式 辞（全日制課程）

本校に隣接する赤羽別院親宣寺には、春の陽気に誘われ、日中に多くの子どもが集まり、にぎやかな声が周囲に響き渡っています。この地域の春の訪れを感じさせる一つの情景から、いよいよ入学生を迎えるのだと実感する季節となりました。

このような時に、愛知県立一色高等学校全日制課程入学式を盛大に挙行できますことは大きな喜びであります。

また、大変御多用の中、御来賓として、PTA会長 猪塚悦子様をはじめPTA役員の皆様に御臨席を賜りました。高いところからではございますが、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ただ今、入学を許可した、生活デザイン科二十五名、普通科百十七名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、お子様の御入学 誠におめでとうございます。教職員一同 心から歓迎申し上げます。

入学にあたり、まず皆さんには、自分の命、他人の命を大切にすることを高くもって欲しいと強く願います。皆さんがこの世に生を受けたことは非常に尊く、何者にも代え難いものです。決して自己否定に偏ることなく、本校で自分の長所を思う存分に伸ばしてください。私たち教職員はその支援に丁寧に関わっていきます。また、それと同様に他人の命も尊いものです。他人の人権や人格を尊重し、多様な視点を学び、共存できる大人へこの三年間で成長してください。

そして、皆さんには「自己有用感」を高めてもらいたいとも思っています。これによく似た言葉で「自己肯定感」という言葉があり、この言葉の方が親しみがあると思います。「自己肯定感」は読んで字のごとく自分の価値や存在意義を肯定できる感情を意味します。自己肯定感の強い人物は、ありのままの自分を認めることができ、他者も認めることができます。自分に自信がもてるから困難も乗り越えられる傾向が強く、勿論、皆さんにも育ててもらいたい感情の一つでもあります。

一方、「自己有用感」は、誰かの役に立っている、貢献して

いるなど、自分が社会で有用であると思える感情のことを言います。誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、他人の存在なしでは生まれない感情であり、この点で自己肯定感とは異なります。

ところで、自己肯定感が高ければ自己有用感も高いかといえ、必ずしもそうとは限りません。「自分は能力があるのに、周りが認めてくれない。うまくいかないのは、周りの人たちが悪いからだ。」と、周囲に責任転嫁する人がいたとします。これは、自己肯定感だけが低い例です。

しかし、絵を描くことが得意な子が、クラス旗のデザインを担当することに選ばれたとします。「自分は絵を描くことが得意なので、クラスの代表としてデザインを任された。だから、みんなの期待に応えられるように頑張りたい。」これは、他者から認められ、期待されているという自己有用感を伴った自己肯定感であります。単に「絵を描くことが得意である」という自信だけではなく、他者のために自分の力を発揮したいという思いに高まっています。本人にとって「絵を描く上手さ」は、さほど重要ではなくなっているとさえ言えます。

このように、自己肯定感を高めるには、まず、自己有用感を高めることが大切です。人の役に立つ、相手に喜んでもらう、皆さんにはそんな体験を本校での三年間で多く積んでもらいたいと思っています。そのためにも、他者との関わりを大切にし、社会的なルールを守り、場面に応じた会話や行動ができる社会的なスキルを身につけてください。

保護者の方におかれましても、お子様のことで、悩まれたり困られたりした際には、遠慮なく学校へ御相談ください。また、本校の教育方針への御理解と御協力をお願いいたします。家庭と学校とが互いに手を取り合いお子様の成長を支えていきましょう。

最後になりますが、本校に関係する全ての方々の御健勝と一色高校のますますの発展を祈念いたしまして式辞といたします。

令和八年四月六日

愛知県立一色高等学校長 鈴木 静